

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071201026		
法人名	医療法人 政裕会 ときつ医院		
事業所名	グループホーム 多久庵		
所在地 (電話番号)	福岡市西区内浜2丁目4-9 (電話) 092-881-1500		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年4月8日	評価確定日	平成20年5月19日

【情報提供票より】(20年 3月26日事業所訪

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	21 人	常勤 5人, 非常勤 16人, 常勤換算	1.9

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設/単独	<input type="checkbox"/> 新築/改築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有(500,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 円 1ヶ月 30,000円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1		要介護2	1名
要介護3	6名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	名
年齢	平均 84.9歳	最低 76歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白十字病院、田中歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

“自分の親でも安心して住めるような場所をつくりたい”という代表者の思いから開設され、近隣に母体医院やデイサービス、2階には高齢者住宅が併設されたホームである。ホーム内は季節感を感じさせる飾り付けや行事の際の利用者の写真などが飾られ、家庭的な雰囲気を作り上げている。充実した医療連携により、開設当初からターミナルケアに力を入れており、ホーム内での人生の最期を迎える利用者を支援していきたいと考えている。職員の雰囲気は穏やかで忙しい感じがなく、その影響が利用者の表情も穏やかである。十分な医療を受けながらも家庭的でのんびりとした生活ができる、ゆったりとした雰囲気のホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題として、ホームの理念の地域への啓発、状態変化に伴う細かな介護計画の見直し、金銭出納帳の作成、地域住民との関わり、オートロックによる玄関の施錠などが挙げられていた。地域との関わりは少しずつ取り組まれており、運営推進会議や自治会定例会を通じて啓発活動を行っている。計画は退院後の見直しを徹底し、出納帳も作成されていた。施錠については今後徐々に施錠せずにするよう検討していく予定である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員それぞれに分担し、話し合いながら作成している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議はまだ一度しか開催していない。おおむね2ヶ月に1回以上、定期的に開催することされていますので、今後の定期的開催を期待したい。会議には市町村担当者や自治会役員、民生委員と家族、管理者、代表者が参加しており、ホームの役割や成り立ち、状況報告や意見交換を行っている。会議の場を状況報告を行うだけの場とするのではなく、今後は外部評価結果と改善の取り組みの報告や、地域との交流促進のための話し合い等を行うことで、地域に開かれたサービスとしての質の確保を図っていくことが求められる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>苦情相談窓口は重要事項説明書に記載するとともにホーム入口に掲示している。家族の面会時や運営推進会議の際にも意見を聞き、苦情があればその都度ミーティングしすくに対応するようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との付き合いはまだ始めたばかりで、まず近所の人々に挨拶をした!世間話をして顔なじみになることから取り組んでいる。自治会の定例会に参加したり、地域防災訓練への参加、中学校の職場体験の受け入れ、ホームでの夏祭りの開催など様々な活動を行っており、地域の人々との交流とホームのPRに努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念として、「自立した生活の援助」「選択の機会と自由」「個人の尊重」「プライバシーの保護」「穏やかな死の援助」の5つを掲げている。ホーム独自の理念は作られていない。		グループホームの基本方針は18年より「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」とされ、これまでの理念に加え地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ内容が求められている。法人全体の理念を踏まえたうえで、入居者が地域住民としてどのように暮らすのか、またホームが地域でどのような役割を担うのかを反映した理念を、独自で検討していくことが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入口に掲示しており、ミーティングや申し送りでの日々のケアが理念に通じるものであるかを職員全員で振り返り、気づきがあればその都度話すことで、職員の意識を統一し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との付き合いはまだ始めたばかりで、まず近所の人々に挨拶をしたり世間話をして顔なじみになることから取り組んでいる。自治会の定例会に参加したり、地域防災訓練への参加、中学校の職場体験の受け入れ、ホームでの夏祭りの開催など様々な活動を行っており、地域の人々との交流とホームのPRに努めている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員それぞれに分担し、話し合いながら作成している。前回の外部評価では、ホームの理念の地域への啓発、状態変化に伴う細かな介護計画の見直し、金銭出納帳の作成、地域住民との関わりなどが挙げられていたが、評価結果を活かして職員全員で話し合い、具体的に改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市町村担当者や自治会役員、民生委員と家族、管理者、代表者が参加し、ホームの役割や成り立ち、状況報告や意見交換を行っているが、今まで一度の開催のみである。		運営推進会議はおおむね2ヶ月に1回の開催が義務付けられている。今後の定期的開催を期待する。また、状況報告を行うだけでなく外部評価結果と改善の取り組みの報告や、地域との交流促進のための話し合い等を行うことで、地域に開かれたサービスとしての質の確保を図っていくことが求められる。

グループホーム 多久庵

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と相談して、地域との関わりとして中学生の職場体験の受け入れをしたり、権利擁護の勉強会に講師として市町村担当者に来てもらうなど、協同してサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護事業についてはこれまでに勉強会を一度ずつ開催している。利用者や家族へは契約時と必要に応じてその管理者から説明しているがパンフレットやその他資料は常備されていない。		制度に関しては一度の勉強会で理解するのは困難であり、継続的な勉強会の開催が望ましい。また、利用者や家族から質問されたときに職員全員がいつでも答えられるようパンフレットも常備し知識も共有しておくことが望まれる。
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に体調など暮らし方を報告している。また、個別に利用者の写真や、暮らし方の報告を添えた「多久庵通信」を3ヶ月ごとに送付している。金銭については預かり金のある利用者に関しては金銭出納帳に記載し報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は重要事項説明書に記載するとともにホーム入口に掲示している。家族の面会時や運営推進会議の際にも意見を聞き、苦情があればその都度ミーティングしすぐに対応するようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人のグループホームが近くにあり、一部の職員は両ホームを日々ローテーションで勤務しているため、職員の入れ替わりが多いように感じられるが、職員全員が利用者一人ひとりを把握に努め、顔なじみの関係ができていたため、利用者へのダメージは少ない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>法人代表者は、職員採用の際は年齢や性別ではなく仕事に対する熱意や、取り組む姿勢を重視するようにしている。また、採用後は半年から一年後にミーティングにより、本人の希望や適性を判断し、より力を発揮できる部署へ配属するようにしている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権尊重のためにはその人の歩んできた歴史が重要であると考えており、利用者の生活歴の把握に努めている。また、身体的・精神的虐待や拘束についての講習会に参加したり、ミーティングで話し合ったりして、人権教育に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に職員全員参加での勉強会を開き、ホーム内での学びの場を設けるとともに、管理者は外部研修を職員に案内し、希望者は受講できるよう勤務も調整している。受講後は職員同士で内容を伝達し、学びを共有している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会での研修を通じて意見交換会などでの交流がある。また、ブロック内での勉強会も2ヶ月ごとにあい参加している。その場を活かしてホーム同士の見学や、職員の1日交換研修等も行っており、同業者との交流を通じてサービスの質向上のための取り組みがなされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前にはホーム内の見学や、1週間程度の体験入所が行われている。また、入所初期には家族へ電話して声を聴くことで安心してもらったり家族に宿泊してもらったり、家族の協力を得ながら利用者が徐々に馴染めるように工夫している。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	職員は入居者の言葉に耳を傾けその人を理解しようと努め、時には共感したり生活の知恵を教わったり一緒に囲碁などを楽しんだり、喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活のリズムをよく観察し、会話や表情、態度、また家族の意見を取り入れながら、思いや意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の希望をできる限り把握し、家族面会時には家族の意見を聞き取りそれを踏まえてミーティングで職員全員で話し合って介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は4ヶ月から6ヶ月ごとに見直している。前回の外部評価結果を活かして、利用者が退院され帰って来られた時には必ず見直すようにしている。見直しの際はミーティングし全員で意見交換を行っている。担当医師の意見や家族の意見を聞いているが、サービス担当者会議の記録がなされていない。		サービス担当者会議には家族や担当医師も参加してもらい、無理な場合でも意見を聞いて、担当者会議の記録として残すことで、より利用者の状態や意向に沿った計画の見直しにつなげることができる。担当者会議の記録を行うこと望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院が近くであり 24時間の医療連携をとることができている。他に、かかりつけ医への通院介助や、家族の宿泊の支援など、本人や家族の状況要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	母体病院が近くであり 週に4回の往診があるだけでなく24時間の医療連携をとることができている。また、協力医療機関や利用者希望のかかりつけ医への通院も支援している。眼科、皮膚科、歯科の定期的な往診もあり 利用者は適切な医療を受けることができている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	理念でも「穏やかな死の援助」をうたっており 法人全体でターミナルケアに力を入れている。母体病院との連携により体調変化時もすぐに対応できる体制が整っている。家族へは入居時に説明するだけでなく、必要があればその都度話し合い、方針を共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては入居時に同意を得るようにしている。利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないよう 職員全員で理念に基づいて日々振り返り話し合っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の予定の大まかな流れはあるが、それにとらわれず利用者一人ひとりのペースに合わせ、本人の状態や希望に応じて過ごしている。天気の良い日は公園まで散歩したり神社まで出かけたリ、リビングで新聞や読書、歌を歌ったり囲碁や折り紙など、利用者は思い思いに過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食の準備は業者に委託しており料理を作ることはないが、朝食とおやつは職員が手作りし、利用者にも手伝ってもらった場合もある。また、職員も同じテーブルで利用者と会話をしながら同じものを食べ、テーブル拭きやお皿拭き等も手伝ってもらったことで、関係作りや利用者の力の発揮の場として支援している。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は決まりはなく、利用者が少なくとも1日おきに入浴できるよう促している。就床前に毎日入浴する利用者もおられ、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物を干す、たたむなど利用者に応じた役割や、誕生日会や夏祭りなどの季節の行事だけでなく、和室で囲碁をしたり歌を歌ったり折り紙をする等、利用者一人ひとりの趣味や好みに応じて日々を楽しみながら過ごせるよう配慮している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園までの日常的な散歩だけでなく、近くのリサイクルボックスまで散歩を兼ねて新聞などを持って行ったりお花見や神社までドライブするなど利用者の体調や希望に応じて支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	一部家族の要望もありホームの玄関はオートロックになっており外へ出る際も暗証番号が必要である。しかし、鍵をかけていることの利用者への影響を考慮しいつでも利用者が出かけられるよう今後の工夫を検討中である。		鍵をかけられ自分で自由に外出できないことで利用者を与える心理的弊害を、もう一度ホーム全体で認識し、職員の目の届く時間帯は開放する等、徐々に鍵をかけなくてもすむようなケアを実践していくことが期待される。また、家族や地域の人々にも説明し、理解と協力を得ていくことが望まれる。
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう動きかけている	消防署の指導を受けながら年に2度、初期消火や避難経路の確認をしたり利用者と一緒に避難したり、夜間想定での訓練を実施している。地域での防災訓練にも参加しているが、具体的な協力の依頼までには至っていない。		非常災害時にはホームの近隣の地域住民の協力も必要になってくる。まだ協力依頼までには至っていないため、今後は消防団への声をかけたりホームでの訓練に地域住民も参加してもらい、交流を深めながら協力体制を築いていくことが望まれる。また、非常持ち出し用の物品の準備も整えておくことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランス、カロリーを考慮し業者が作成しており、キザミ食やトロミ食なども個別に対応し、食事摂取量もチェックし記録している。水分摂取は10時、15時、就床前に必ず促すようにし、摂取が少ない場合にはその人が好むジュースなどに変えたりして臨機応変に対応し、支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは2階までの吹き抜けで昼間は自然の光が入り、広々とした明るい空間である。ゆったりとしたソファや和室、ウッドデッキのある広い庭など、家庭的で温かみのある環境である。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具を持ち込み、家族も写真などを持ち込まれ、好みや生活スタイルに合わせて配置し、居心地良く過ごせるよう配慮している。		